

国家戦略特区介護ロボット等実証施設公募 選定結果

事業者名	社会福祉法人 春秋会		選 定		
代表者名	理事長 渡辺 群司				
施設名	好日苑大里の郷				
施設所在地	門司区大里戸ノ上四丁目				
評価結果	評価項目		配点	評価	得点
	基本方針・ 運営方針に 関するもの	法人の経営理念・施設の基本方針	10.0	C	6.0
		利用者への情報提供、情報公開	6.0	B	4.8
		利用者一人ひとりへのサービス提供	6.0	B	4.8
		職員の育成、職場環境	7.0	B	5.6
		利用者の尊厳の保持	7.0	C	4.2
		苦情解決の仕組み	6.0	C	3.6
		事故防止対策及び事故発生時の対応	7.0	C	4.2
		虐待防止対策、身体拘束廃止	6.0	C	3.6
		個人情報保護対策	6.0	C	3.6
		認知症高齢者ケア	6.0	C	3.6
		その他創意工夫や取組みの特徴	7.0	B	5.6
		小 計		74.0	—
	実現性に関 するもの	事業計画の具体性・実現性と継続性	26.0	B	20.8
小 計		26.0	—	20.8	
総 合 点		100.0	—	70.4	

評価レベル	乗率	
A	100%	特に優れている(高度な能力を有している)
B	80%	優れている(十分な能力を有している)
C	60%	普通(一応の能力を有している)
D	40%	不十分である
E	0%	不適切である

事業者名	社会福祉法人 春秋会
選定理由	<p>〔総評〕</p> <p>今回の提案については、全体的に各評価項目が一般的な説明にとどまらず、当該法人の運営する介護事業の実績を踏まえた具体性のある内容となっており、評価できる。</p> <p>特に、「利用者への情報提供、情報公開」、「事故防止対策及び事故発生時の対応」、「個人情報保護対策」では、特区指定に伴う設備基準の特例や介護ロボット等の実証・実装及び作業分析などを活用していくうえでの視点が記述されており、実証・実装及び作業分析を行う施設として適した施設であり、適切に対応できると判断した。</p> <p>ヒアリングにおいても、各評価項目について、提案内容を踏まえたより具体的かつ明確な回答が得られ、全体的に提案の実現性を十分に有することが確認された。</p> <p>その他、プラスの評価となった主な項目については以下のとおりである。</p> <p>〔項目ごとの評価〕</p> <p>○「利用者への情報提供、情報公開」では、利用者及び家族に対して可能な限り専門用語を使用せず、理解しやすい言葉で説明し、理解しやすいように配慮するなど具体</p>

	<p>的に提案されている。また、作業分析、介護ロボットの実証時における取組みについての情報提供方法も具体的に示されている。</p> <p>○「利用者一人ひとりへのサービス提供」では、保有機能の維持を図るための生活リハビリの実施、表情や言動などから身体状況の変化に気づき、迅速な対応を出来るようにフローチャートを作成するなど具体的な取組みが示されており、介護ロボット等の実証時には、その状況に合うように内容を変更するなど具体的に提案されている。</p> <p>○「職員の育成、職場環境」では、段階に応じた教育の実施や、法人の経営陣と各施設の現場責任者及び各施設の事務主任などをメンバーとした、経営戦略会議を開催し、経営課題並びに現場での課題の抽出など、経営面だけでなく職員の処遇改善の観点から議論を行い、職員の志やモチベーション高める取組みが示されている。</p> <p>○「その他創意工夫や取組みの特徴」では、介護職員の負担の軽減策として、ノーリフト(かかえない介護)を目指して取り組むなど、具体的な内容が示されている。</p>
付帯条件	<p>○選定された事業所が実地指導等で指摘を受けた場合は、指摘事項について改善を行うこと。また、返還金等が発生した場合は誠実に返還すること。</p> <p>○選定された事業所は、実証・実装及び作業分析が開始される前に、利用者・家族には、必要な情報(リスク管理も含む)の提供及び説明、情報公開や適正な表示を行い、理解と協力を得られるように努めること。また、社会福祉法人として、運営状況の透明性を確保すること。</p> <p>○介護ロボット等の実証・実装及び作業分析などが開始されてからは、様々な方の出入りが想定されることから、「利用者の尊厳の保持」、「苦情解決の対策」、「事故防止対策及び事故発生時の対応」、「個人情報保護対策」に十分留意し、対策を講ずること。また、実証に際しては、利用者の立場に立ち、自立を阻害することのないように留意すること。</p> <p>○介護ロボット等の実証・実装及び作業分析を行う中で、施設で働く職員の負担やストレスの軽減、やる気や満足度を高めるための職場の環境づくりに努めること。また、施設で働く職員の更なる介護知識・技術の質の向上に努めること。</p> <p>○介護ロボット等の実証・実装及び作業分析中においては、課題を抽出し、多職種で様々なメリット及びデメリットを分析・検討したうえで、集約した意見をフィードバックし、介護ロボット開発につなげること。</p> <p>○本事業の実施にあたっては、関係部署と密に連携を取ること。</p>